

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らす、過ごせるよう、日々の支援で大切にしたい“こころ”と人と人、地域との調和を理念として「和・話・笑・我・輪」掲げている		
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の関わるすべての中で、理念が必然的に存在することを、ミーティング、申し送り、カンファなどで振り返り、共通認識を図り、それを具体的なケアで展開できるよう、スタッフと共に行動指針を作成している	○	具体化された行動指針を実践で活かしていきたい
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	本体施設で継続的に地域、家族の関わりの中で、こころの理念をもとに取り組んでいる活動(事業)があり、もう1つの取り組みを本体施設の支援を受けながら地域へ、そして当事業所利用者ご家族の方々へ浸透を図っている	○	ご家族、地域との関わりや、ボランティア、実習生の受け入れや活動の発信をとおり、理念の浸透に取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	本体施設において継続的な地域との関わりの中で、地域の小学校の演奏会見学や、地域の農園のご好意によるさくらんぼ狩り、季節のごとにとれる野菜の贈り物、ボランティアサークルによる喫茶サービス、納涼祭においては、地域の方々と一緒に準備運営を行い交流を図っている、そうした中で当事業所と地域との関わりの積み重ねを図っている	○	ご家族、地域との関わりや、ボランティア、実習生の受け入れや活動の発信をとおり支えあう関係を続けていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5 ○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に捉われすぎないように日々の関わるすべての中で、必然的に評価が存在することを、ミーティング、申し送り、カンファなどで振り返り、共通認識を図れるよう継続的に取り組んでいる、自己評価は全職員で行い、自分達の振り返りをし、良い点や改善点に気付く機会として取り組んでいる	○	評価を継続的に気づきや改善、いい点の広がり活かしたい
6 ○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置にたどりつき、開催に向け準備を進めている	○	会議の継続的实施とサービスの向上につなげていきたい
7 ○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当職員が施設訪問し、運営や利用者状況や実態の把握に来所されている、又、事業所においては、運営面、サービス面の課題について協議し共有を図っている		
8 ○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の概要について共通理解に取り組んでいる、制度活用においては、個々の必要性について、ご家族、関係機関、本体施設の協力支援のもと活用の有無を協議している	○	今後は理解から活用へ向け取り組んでいきたい
9 ○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での関わりの中で理念の共有と尊厳保持の観点を含めた確認・理解・防止ができるよう標準的ケアを定め取り組んでいる	○	高齢者虐待防止関連法の地域での運用や機関などの理解をしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に、施設の見学やご自宅等の訪問での説明、利用案内による準備から利用開始、料金内容や終了する場合の内容など掲載し活用している	
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当がご本人のお部屋への訪問を定期的に行い意見や意向を聞く機会として設定し、運営面の具体的な支援に結ぶつづけている。	
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に心身の状況と近況を報告している。毎月、近隣、遠方の方に関わらず、代行管理状況と心身状況をお知らせしている	
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ご意見箱の設置、公的な部分も含め苦情相談先なども掲示している、家族の方が来所時、電話での連絡機会を通じてご意見など伺い、運営面への反映に努めている	
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどの中で意見提案を事業所内、グループ内で計画実施評価に取り組んでいく機会を設け実施している	
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、家族の希望を反映する為、入居者のケアに支障がないよう配慮しながら、カリキュラムを変更したり、一定の人員は確保しつつ勤務調整を行っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時1ユニットから2ユニットになり、関わる人が増える面の影響を重点に考え、全員となじみの関係を形成していけるよう、A棟B棟の区別をなくした関わり、交流を図っている		
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成、研修に関する基本姿勢を明示し、全体、新任、中堅、リーダーと階層別研修の実施している	○	外部の専門的(認知症)研修を取り入れていきたい
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業の協会に加入し、研修、委員会への参加し、ネットワークの構築を図り、施設への訪問、情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる		
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	全ての時間を直接関わる業務設定にせず、直接、間接とケアに関わる部分の心身面の軽減、サービス面の客観する部分での振り返りを図る設定をしている、その他、休憩できるスペースや職員間の交流する機会(互助会)を設けている		
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得制度や人事考課により、自分のプロセスの評価と気づきを促し、向上心が持てるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人、ご家族の不安解消・信頼関係形成の為、事前に施設の見学やご自宅等へ訪問を実施している	
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず相談受付をし、本人、家族の希望、又は全体像を把握した上で、他のサービス情報も提供し、自己選択を促している	
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気に馴染めるまで、ご家族と共に外出する機会や面会の機会を多くしていただいたり、またその中でご家族と話す機会を職員が多くもてる場面として捉え安心したサービス利用を図っている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援を受ける側、提供する側という区別ではなく、ご本人の生活を共感する中で、生活上の不具合な部分へのサポート、また、ご本人の持つ機能をここでの共同生活上での支援者として関わっていただく取り組みをしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事を行う際にご家族と共に過ごす時間や外出する機会(祭事)を設けたり、面会を定期的にしていただくことでご家族と職員が共に支援する関係を築いていくよう情報提供に努めている		
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事を行う際にご家族と共に過ごす時間や外出する機会(祭事)を設けたり、面会を定期的にしていただいたり、病院受診に同行依頼をするなどご本人の心身面の理解とともにご家族との関係が継続するよう努めている		
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆のお墓参りを続ける方の支援やこれまでの生活上で買物や金融機関への外出を支援するなど配慮している		
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その方の得意不得意や、男女の違い、居室の配置、テーブルの位置等の、共有空間の環境調整を行い、過ごしやすい空間作りを心がけている		
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した状況に応じ、医療機関であれば定期的に訪問し、関わりを断ち切らない取り組みをしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握をし、コミュニケーションの中で確認したり読み取ったり、それが困難な方はご家族への確認と共に両方で確認している	
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、自宅を訪問したり、本人や、家族、関係者などから話を聴いたりすることで把握している	
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活継続面の身体面、精神面、日常生活面について把握するアセスメントを行い、日々の生活上の安定を図るエラーのチェックを実施している	○ センター方式のシートを一部活用し、より具体的な把握ができるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活継続面の身体面、精神面、日常生活面について把握するアセスメントを行い、これまでのサービス利用、関係者からの情報取得や生活歴の把握から不具合な生活面をサポートする計画を作成している	
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化(心身面、疾病など)、支援内容の不具合の状況を一定期間の観察のもと、主治医、ご家族からの意見をいただき、日々のカンファレンスで見直しをしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、身体状況および、その方にとって日常生活上での不便が発生した場合、記録している。また、サービス内容のチェック方式による不具合の内容が計画見直しへ反映する設定をしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養、デイサービス、小規模多機能等、それぞれのもつ機能を活用したり、交流を図っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本体施設において継続的な地域との関わりの中で、地域の消防部の方々が防災協力員として活動され、地域の小学校の方々の訪問や、地域の農園のご好意によるさくらんぼ狩り、季節のごとにとれる野菜の贈り物、ボランティアサークルによる喫茶サービス、納涼祭での地域の方々との交流を図り、地域社会のひとりであることから始めている		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態変化(心身面、疾病など)、により生活環境面(設備、生活状態)が適応困難な場合に、本体施設の支援を受けながら、入居前のケアマネジャー、主治医やご家族とサービス支援、変更の協議することとしている		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域での生活を継続するうえで、ご本人の選択決定を補助、支援が長期にわたって必要な場合、包括、社協、ケアマネの方々の協力をいただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が従来から見ていただいているかかりつけ医を利用している、ご家族が同行可能な場合、受診に同行されかかりつけ医との関わりを事業所と一緒に構築するよう取り組んでいる		
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の助言を受けながら、そしてご家族との協議をしながら、専門医の受診を支援している		
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員と連携、協力により、日々の身体状況の管理や、状態変化に応じ、医療面の対応をしている		
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、面会を行い身体面の状態把握と今後の医療経過の情報取得、退院支援の内容を協議する方法をとっている		
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態変化(心身面、疾病など)、に伴う重度化により生活環境面(設備、生活状態)が適応困難な場合に、本体施設の支援を受けながら、入居前のケアマネージャー、主治医やご家族とサービス支援、変更の協議することとしている、終末期に向けた取り組みはしていない		
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の状態変化(心身面、疾病など)、に伴う重度化により生活環境面(設備、生活状態)が適応困難な場合に、本体施設の支援を受けながら、入居前のケアマネージャー、主治医やご家族とサービス支援、変更の協議することとしている、終末期に向けた取り組みはしていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状態変化(心身面、疾病など)、に伴う重度化により生活環境面(設備、生活状態)が適応困難な場合に、本体施設の支援を受けながら、入居前のケアマネージャー、主治医やご家族とサービス支援、変更の協議することとしている		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについての基本姿勢、マニュアルの整備をしているが、規程、マニュアルに基づいた管理取扱いまでいたっていない、対応においては、理念にあるようにご本人を尊重する基本姿勢で取り組んでいる		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事メニュー(ご飯・パン)の選択や、行事への参加の選択、買い物の自由等、自己決定できる場を作っている		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースを大事にしながら、その方の基本の生活を守っていくことを重視している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望により、洋服を選んでもらったり、美容院へ出かけてもらったりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでもらうことを基本に空間や雰囲気配慮している。また、生活支援という部分では作ることを忘れない為に、活動で取り入れている		
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時間は自ら選んで購入したおやつを食べている。たばこも、換気のよい場所で吸えるようにしている。提供に関しては状態に応じて工夫している		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	身体面(疾病を把握)の機能と食事、水分量、ご本人の生活習慣も含め排泄ケアとして支援している		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット浴の日と大浴場での入浴日を設けており併施設設方々との交流を図りながら実施		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活上のリズムの構築や整えることを基本に、また、身体面、精神面の変化を受け入れ、休息、睡眠の支援に取り組んでいる		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の準備、片付け、洗濯たたみ等、本人の生活上の習慣化や役割化を取り入れたり、共同で行うものお部屋での時間を過ごすお一人の時間も組み入れ支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所有を希望される入居者には、お金をもっといただいており、買い物の際も自ら支払いをしてもらっている		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外への散歩は日常的な支援の1つとしている、おひとりお一人にその日に応じる形態が難しい場合は、日程をずらすなど目的や希望の内容にそえるよう取り組んでいる、		
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合った外出予定を立て、季節感、馴染みの方と過ごす機会として支援している		
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に連絡をとっていただけるよう公衆電話を設置している。また、家族からの電話もゆっくり話してもらえよう子機にて取り次いでいる。手紙や荷物等も自由にやりとりしてもらっている		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時においてご家族の方へ訪問する方々がいることで、生活面での支援の1つとして理解をいただくとともに、一緒に過ごす場所を、お部屋やその共有スペースの活用をして工夫をしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念の共有と尊厳保持の観点を含めた確認・理解ができるよう標準的ケアのなかで定め取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけておらず、止める、閉ざすことはしない標準的ケアを定め、見守るそして付き添うこととに組み合わせている、ただし夜間帯は保安上の玄関の鍵はかけることを来訪者への掲示で対応している		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認や様子確認に見落としがないようエリア区分、スペース確認を行い、見守りを図っている		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等によるけが等を未然に防ぐ為、保管管理が必要な物は、一律に保管しているが、本人の希望や、使う必要なときは、確認と見守りの基、使用してもらっている		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	標準的ケアの1つとして取り組んでいる、その防止や留意点確認のため、事故ニアミスの報告書に記載し共有している		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	標準的ケアの1つとして取り組んでいる、その防止や留意点確認のため、事故ニアミスの報告書に記載し共有している		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策を定め消防訓練を定期的実施(地域の防災協力員と合同)、地域の防災協力員と協力のもと、施設のへの巡回をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の状態変化(心身面、疾病など)、に伴うリスク、生活環境面(設備、生活状態)のリスク状態変化があった場合には、ご家族、かかりつけ医師と対応策について協議している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の心身状況を把握しており、バイタル等や特変の異常がある場合は、受診をしている		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋を添付しており、常時確認できる状態にある。準備、セッティング、服薬支援、薬変更の症状確認が複数の目でチェックする仕組みをとっている		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体面(疾病を把握)の機能と食事、水分量、ご本人の生活習慣も含め排泄ケアとして支援している		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、食みがきの声掛け、見守り、介助を行っている		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成する献立により栄養の摂取状況の確認をできるようにし、水分量の一定量の確保を午前午後に取り入れ、習慣に応じた食品類等もご本人、または提供する形態で支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	標準的ケアの1つとして取り組んでいる		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は全て消毒保管、調理用具の消毒、冷蔵庫内の食品管理の点検・清掃を標準化している、入居者のおやつ等の点検も定期的に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の方々にとって馴染み深い、建物の概観の作りになっている、玄関前と外にベンチ、ソファを置き、休憩できるスペースを設けている		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングはみんなが集まる空間として移動の利便性やそれぞれの馴染みの方々のスペースエリアとして活用し、季節感がまじかに感じられる田園風景とあえる空間となっている		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファースペースや、テーブルスペース等セミパブリックな空間を作り過ごせるように設定している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにし寝具や家族の写真、位牌等の思い出の品が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調、冷暖房、床暖を完備し、居室も温度調整可能となっている。温度は入居者の状態により調整の配慮をしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し各所に手すり等設置し、洗面台の高さも使用しやすいように配慮している、また利用者の移動性や活動性を維持する為に必要に応じて車椅子、シルバーカー、身障用トイレを用意している		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で使用するものや場所、できる動作行為をご本人の生活行為で可能な部分を目印や繰り返しの中で暮らしの中に取り入れ対応している		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	併設する施設の機能(慰問、訪問販売)を活用し生活感覚を実感したり、大きいお風呂の利用、交流を図り楽しむ空間活用をしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
自己評価票		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が 職員の数2/3くらいが ☐ 職員の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者数2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が 家族等2/3くらいが ☐ 家族等の1/3くらいが ☐ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)